

平成27年度事業計画

丹後あじわいの郷は、平成10年に開園、地域農業の振興、都市と農村の交流を通じて地域農林水産業の振興を図り、もって農林水産業を軸とした丹後地域の活性化に寄与することを目的として、地域の農林・商工・観光等の団体や行政機関との連携に努めながら、地域の資源を生かした食の魅力を発信するとともに、来園される方々や地域の方々に親しまれる公園づくりを目指してきました。

平成26年度からは、「丹後・食の王国」首都として、丹後の本物の食の提供や農漁業の10次産業化を実践するとともに、丹後観光のゲートウェイとして、丹後地域の総合案内・情報発信に加え、「丹後王国」の歴史・文化を園内外に最大限にアピールしていく拠点施設にするリニューアル工事が開始され、今年度からは、地域の事業者も参画した新しい運営母体と連携、協力して、丹後王国「食のみやこ」としての取組を実践していくことになりました。

今年7月の京都縦貫道の開通など人・ものの流れの飛躍的な増大を追い風に、以下の重点取組事項を実践し、入園者の増加を目指すとともに、「丹後・食の王国」や「海の京都」構想の拠点施設として、行政、協力会や地域の農業法人・企業等と一層の連携を図り、地域の振興につながる公園の活用を進めていきます。

重点とする取組事項は、

- 1 「丹後・食の王国」や「海の京都」構想と連動した「丹後の食」の提供及び情報発信
- 2 協力会、地元市町や学校、関係団体等と連携した月例祭の充実、地域イベントの誘致促進、幅広い世代に利活用される公園づくり
- 3 地域や農業者と連携した新たな農林漁業体験や公園の資源を活用した植物観察、環境学習等の企画実施

平成27年度入園者目標 15万人

<実施事業>

継1 地域交流イベント等の実施により丹後地域の活性化を図る事業

当法人の主要な公益事業である地域交流イベント等地域活性化を図る事業について、株式会社丹後王国や協力会、関係機関・団体との連携を深めて、一層の充実を図ります。

なお、ワインオーナー事業については、財団経営の健全化のため、従来のワイン醸造委託から購入に切り替えるとともに、オーナーと公園との関わりを通じて、丹後地域の食材、農林水産業のPRに努めることとします。

1 異業種交流セミナーの開催

(1) 協力会会員の交流推進

(2) 広域連携事業の実施

○観光団体等との連携

○「海の京都」事業（海フェス京都と連携した園内イベント）

○道の駅間の交流連携

(3) 「丹後農業実践型学舎」、「海の民学舎」の研修等施設利用

2 あじわいの郷月例祭及び「京都・丹後食の王国」イベントの開催

(1) 教育機関との連携による利用拡大

(2) 京都「丹後・食の王国構想」の推進

○丹後の「食」を支える地元の高校や大学等と連携した「学生レストラン」の開催

○各種イベントにおける「丹後の食」のPR

○食育関係団体等と連携したイベント等の開催

○「京都ええもん市『食の王国』春、秋のうまいもん祭」等の開催

(3) 地元産物の販売促進と活用

3 ワインオーナー事業

○ワインブドウの栽培

○ワインオーナーの募集

○ワインオーナー対象、各種イベントでの「食の王国」PR（開発商品、地域農産物等）

<その他の主要な事業>

他1 公園運営及び施設管理

当法人の収益事業として位置付けられる公園及び施設の管理運営については、株式会社丹後王国に委託し、入園者の安全確保、良好な公園環境努めるとともに、自然環境学習、農林漁業体験の企画と実施等も含め、施設の活用を図ります。

また、手作り食品工房の管理運営については、従来の当法人の自営を止め、株式会社丹後王国に製品製造、人材育成の企画と実施も含めて委託し、10次産業化の拠点を目指します。

なお、園内に出店する各事業体の特色を生かした食、体験等の提供を通じて公園の新たな魅力を創出するとともに、公園全域の道の駅指定を生かした取組の開発に努めて、入園者の増大を図り、宿泊、体験、丹後らしい食の出来る「食のみやこ」の実現を図ります。

- 1 京都府、京丹后市から借り受けた公園用地及び施設の管理
- 2 魅力ある公園づくりの企画と整備
- 3 手作り食品工房の運営（食の人材育成、加工食品（パン、ソーセージ、ハム、アイスクリーム等）の製造）
- 4 自然環境学習、農業体験の企画と実施
- 5 体験宿泊施設の管理・運営（温泉活用の誘客、各種研修、会議利用の誘致）
- 6 広報宣伝
 - HPほか各種媒体による広報、府・市町の広報誌による広報
 - 新聞社、FMたんご等報道機関への情報提供
 - 新聞紙上、イベントプログラムへの掲載広告